

## 2024 年度地域社会学科 学校推薦型選抜 小論文 解答例

物流業界では人手不足の問題をトラックドライバーの長時間労働を常態化することでやり過ごしてきた。欲しい物は何でも注文してすぐ届くという、私たちの便利な生活は個々のドライバーへのしわ寄せの上に成り立ってきたのである

ところが、2024 年から物流を担うトラックドライバーの時間外労働時間の上限規制が始まる。これによりこれまで当たり前のように慣れ親しんできたサービスが低下し、生活への影響が出てくるかもしれない。たとえば、宅配便が指定した時間枠に届かない。再配達をしてくれなくなり、自分で荷物を受け取りに行くことが増える。スーパーではいつも置いてあった商品の棚が空になっている。配送に日数がかかるために生鮮食品の鮮度が落ちる。輸送コストがかさむことで商品が値上げされる。

このように問題が全て消費者のところへ回ってくるかどうかはわからないが、速さを重視する価値観は、物流と交通の定時運行という慣行と相まって、物流と交通への負荷をかけ、どこか立場の弱い人のところに集中的にしわ寄せが行く。

こうした問題を解決するためには、当たり前とってきたサービスの一つひとつについて、自分はそれを本当に求めているのかと見直す視点が必要になると思う。自然環境保護のためにコンビニやスーパーでのレジ袋が有料化されたように、当たり前になされてきたサービスを一度全て、有料のオプションに変えてしまっただろうか。宅配便で言えば、日時指定も再配達もお急ぎ便もオプションにしてしまう。その上で、利用者が必要とするオプションを自分で選ぶ。実際、荷物を自宅で受け取るのではなく、コンビニなどへ受け取りに行く方式はすでに導入されている。

コロナ禍の際、私たちは「黙食」など不自由な生活を半ば強制された。しかし、「ゆっくりという選択肢」も強制ではなく、自分で選んだのであれば何の問題もない。不便さを業者の都合で強いられるのではなく、自分で選んでそれを受け容れていくゆとりを持ちたい。